

当センターにおいて消化管切除術をお受けになった患者さんへ

(1) 研究の概要について

当センターでは高齢者消化管癌（食道癌、胃癌、十二指腸癌を含む小腸癌、大腸癌）の発生メカニズムや特徴を明らかにするために、「高齢者消化管癌の病理学的特徴とその発生に関連する遺伝子変化の解析」という研究を実施しております。

現在でも胃癌、大腸癌の発症率は最も高い腫瘍の一つです。また、食道癌、小腸癌も加齢とともに増加する癌です。若年者に発症する消化管癌と比較して、高齢者に発症する消化管癌は発生部位、組織型、転移の比率などに差があることが知られています。これらの特徴を年齢別に明らかにし、さらに高齢者の消化管癌はどのような原因で起きているかを明らかにすることが求められています。

現在までに私どもは高齢者消化管癌がどのような特徴があるか明らかにしてきました。これらの特徴をより詳細に検討することにより、高齢者に発生する消化管癌の発生メカニズム、病態、予後予測因子などが明らかになります。

具体的には平成12年4月～現在までに東京都健康長寿医療センター（旧東京都老人医療センターを含む）で治療のために消化管の病変を切除し、病理検査に提出された検体を対象としています。本研究は手術する際に大部分の患者さんお一人ずつに切除検体を医学研究に用いることの同意を頂いていますが、改めてこのお知らせをもって患者さん皆さんからのご同意を頂いたものとみなさせていただきます。なおこの研究における患者さんの費用負担や謝礼などはございません。

研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加をご希望されない場合や、また研究に関するご質問がある場合には、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

研究題名：「高齢者消化管癌の病理学的特徴とその発生に関連する遺伝子変化の解析」「承認番号：第〇〇番」（〇〇は承認後に記入）

研究期間：倫理審査委員会承認後から平成31年3月31日

主任研究責任者：東京都健康長寿医療センター病理診断科 新井富生

(2) 研究の意義・目的について

この研究は高齢者消化管癌の特徴や発症のメカニズムを明らかにすることが目的です。これらを明らかにすることにより、新しい治療戦略の開発や高齢者に適した治療法の開発に貢献するものと思われます。

(3) 研究の方法について

通常、病理検査に提出された消化管切除検体は診断などに用いられます。我々は、この診断が終わった検体について研究を行います。具体的には、凍結されて保存されている検体やホルマリン固定パラフィン包埋された検体から腫瘍細胞の核酸を抽出して、消化管癌の原因と関連のある遺伝子の変化を解析します。また、マイクロサテライト不安定性や染色体不安定性を示すマーカーに変化についても検討します。ホルマリン固定パラフィン包埋された検体を薄切してミスマッチ修復タンパク質、遺伝子変化に

基づくタンパク質、粘液形質などを免疫組織学的に検討します。胃癌の原因の一つと知られている Epstein-Barrウイルス感染については、*in situ hybridization*法で調べます。

(4) 資料の保管と、他の研究への利用について

病理部において検体を管理している以上、厳密な意味での匿名化は困難と考えられますが、実験を行う際には検体を個人情報とは完全に分離した形で扱っておりますので、本研究によって患者さんの個人情報が漏れる心配はありません。また、国内外に研究の成果を論文・学会等で発表する場合も、個人の特定はできないようにしております。他の研究への利用はありません。なお研究終了後のデータの扱いについては、論文の根拠となるデータは発表後10年間は保管します。保管責任者は研究責任者とし、保管場所については東京都健康長寿医療センター病理診断科の研究室における所定の場所において施錠可能な状態で保管します。

(5) 問い合わせ先

①東京都健康長寿医療センターの問い合わせ先

東京都健康長寿医療センター病理診断科 新井富生

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35-2 電話 03-3964-1141 内線 2410 (平日 9:00~17:00)

苦情窓口：東京都健康長寿医療センター医療サービス推進課医事係(仮)

03-3964-1141 内線 1121 (対応可能時間帯 平日 9:00~17:00)